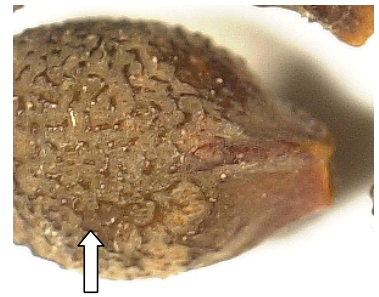
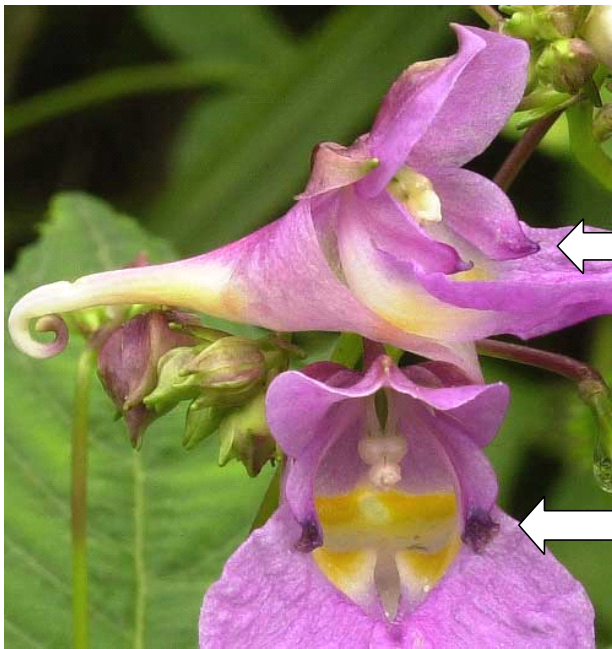


ワタラセツリフネソウの簡単な見分け方

1. ワタラセツリフネソウ *Impatiens ohwadae* M.watanabe et Seriz.



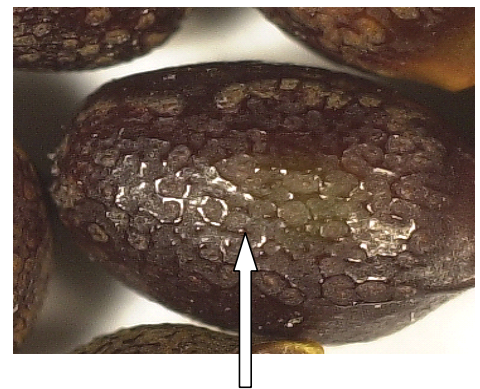
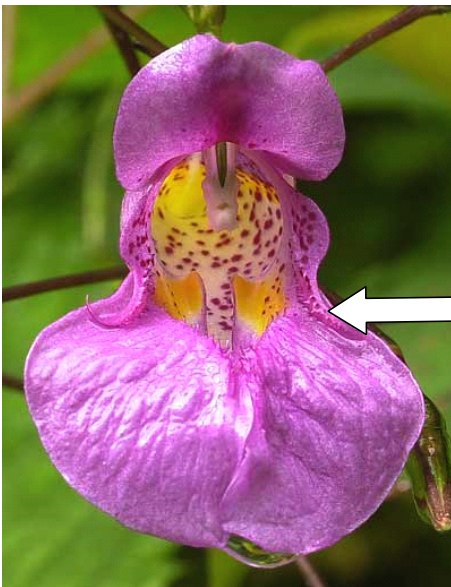
種子の拡大画像（表面模様に注意）

※側花弁上方基部の裂片のことを便宜上、小花弁と称している。

- 1) 小花弁の先はあまり伸び出さない（矢印）。ふつう小花弁の先端は壊死して萎縮し、濃色になる。
- 2) 種子表面の突起がツリフネソウのようなクレーター状にならない（矢印）。種子の色が薄い。
- 3) 花茎に毛がないことが多いが、毛のある個体群もある。

現時点（2005/10/7）での生育確認地は、渡良瀬遊水地（栃木、群馬）、埼玉県北本市・宮代町・岩槻市、千葉県野田市・柏市、茨城県取手市・石下町。

2 ツリフネソウ *Impatiens textori* Miq.



種子表面には円状の模様が見られる。

- 1) 小花弁の先(矢印)が長く伸び出し、イカの足のように見える。
 - 2) 種子表面の突起がややクレーターのような模様になる（矢印）。種子の色が濃い。
 - 3) ふつう花茎に毛があるが、毛のないものもありナメラツリフネソウ（*forma nudipeduncula* Ohtani et S.Suzuki）と呼ばれる。
- 北海道から九州に広く分布し、山地の林道、林のへり、水辺などの湿った所に稀でない。低地のヨシ原にも見られることがある。